

まちがど ネットワーク

お便りください

このコーナーは、皆さんの地域の話題を中心にお届けします。

お便りや出来事を広報広聴課☎51-0123内線2822へお寄せください。

市長への 手紙から

煙突をデザインして まちづくりを進めたら……

このコーナーでは「市長への手紙」の中から、提言などを紹介します。今回は、市政モニターの和田濱雄さん(今泉九)の「煙突を生かしたまちづくり」についてです。

〈市長への手紙〉

先日、富士市にたくさんある煙突に周囲の環境とマッチした色やデザインをし、まちづくりを進めるといふ話を新聞で読みました。私も大変おもしろいことと思います。例えば、潤井川大橋に近い煙突は、富士川合戦にちなみ水鳥の飛ぶ姿などはどうでしょうか。第一清掃工場はバックの森に溶け込む迷彩色もすてきです。企業はこの様なことには腰が重いのので、市で予算化を進め、啓発してほしいと思います。

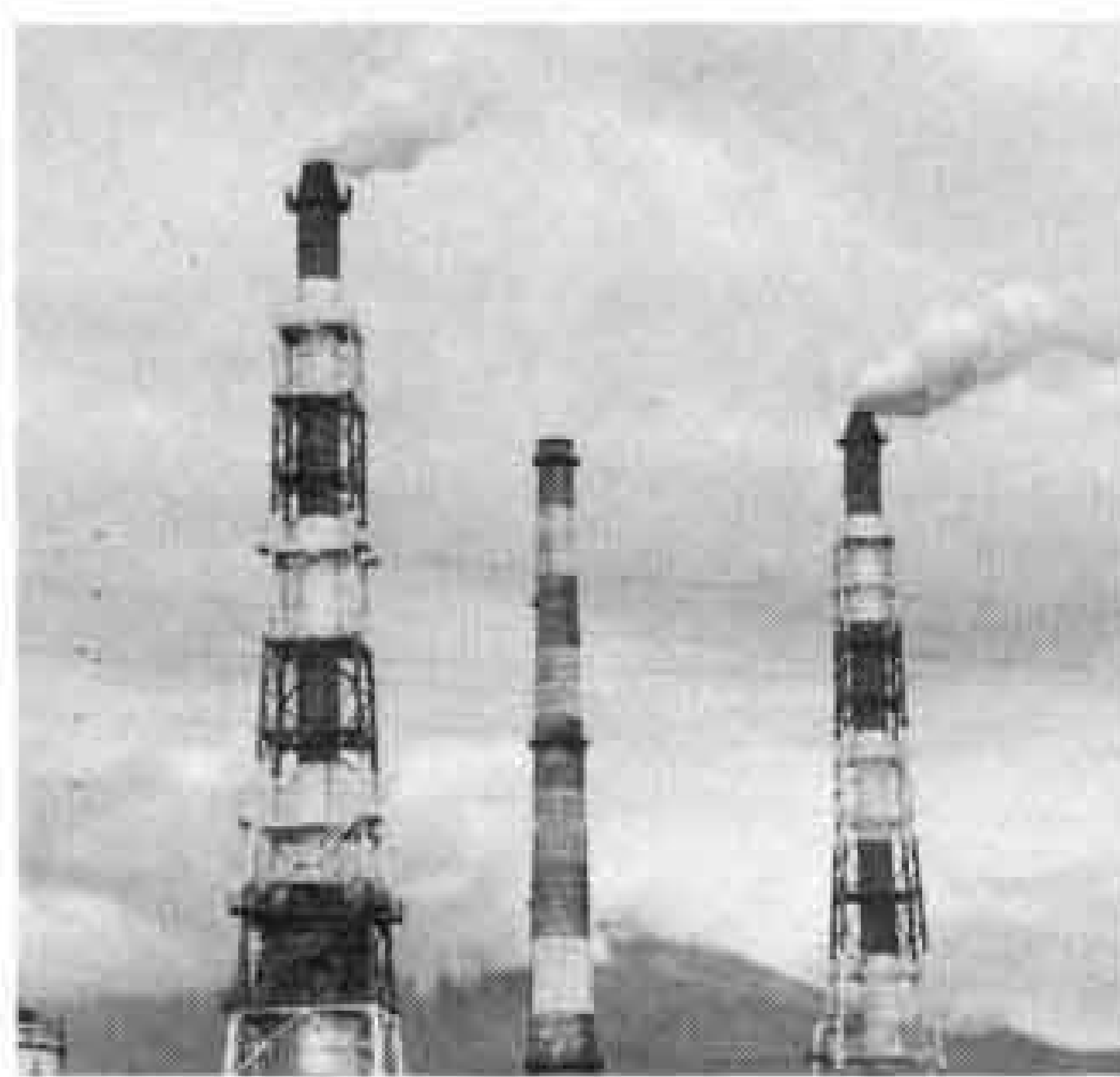
皆さんのアイデアを

〈市長の答え〉

市は今年度から「煙突を日本一生かしたまちづくり」事業を始めました。これは富士市のシンボルともいえる煙突を生かして、だれもがこのまちに住んでよかったと思えるような「富士山と煙突のあるまちづくり」を進めるものです。



和田濱雄さん



紅白でなくデザイン化すると……

市内の五メートル以上の煙突は三百六十二本。これらの煙突を邪魔物扱いするのではなく、長い間富士市の発展を支えてきた功労者として、また、これからも富士市を引っ張っていく活力として積極的にまちづくりに生かしていくというものです。

基本的な考えとして、富士市の煙突が持っている歴史や文化を重視し、様々な視点で煙突を生かしたまちづくりの可能性を探りたいと思っています。

この事業は、煙突を持つ企業の協力が不可欠ですので、市民と企業と行政が一体となったまちづくりを考えていきたいと思っています。

今年度は予備調査を実施しますが、これから先、事業を進めていくなかで、皆さんのアイデアや意見を伺いたいと思います。

女性の社会参加を考える

アイデアボックスの皆さん



女性の社会参加は進んだといつても、まだまだ男性社会。育児・夫婦・お年寄りの問題から労働条件や働きがいなど女性に関する問題は山積しています。こんなことを平たい言葉でにぎやかに議論しているのが、アイデアボックスの皆さん。毎週月曜日に保健婦人センターで活動しています。議論の中から、最近「ボンエルフ」という情報誌も発行し始めました。詳しくは月曜日に☎51-8955へ。

わいわい広場

福祉体験を発表



小原道代さん

市立吉原商業高校二年生の小原道代さんは、十一月九日、市農協会館で行われる社会福祉大会で、体験発表をします。

社会福祉協議会が夏休みに福祉の現場体験として行っている「高校生ワークキャンプ」に二年連続して参加したことや、日ごろのボランティア活動を通して感じたことを発表します。

小原さんは「体験発表で仲間を輪を広げたい」と力強く話してくれました。

防火ポスターで市長賞



宮崎麻里子さん

秋季火災予防運動の一環として行われた防火ポスターコンクール中学校の部で、吉原北中三年の宮崎麻里子さんは、市長賞を受賞しました。

作品は炎をシンブルにデザインし、火の用心という黄色い文字がすぐ目に入る秀作。宮崎さんは「単純な図柄を心がけました。まさか市長賞なんて……」と信じられない様子。最近、二つの作文コンクールでも優秀な成績を収めるなど、充実した毎日です。